



校長室通信

ぶんせき はさまたかふみ
文責 狭間卓史

「栄光の架橋」

3日(土)、本校吹奏楽部第37回定期演奏会が開催されました。本年度は新型コロナウイルスの感染拡大への懸念から、様々な活動に影響が及んでいます。日頃の学校生活はもとより、先日実施した体育大会等の学校行事や部活動においても同様です。吹奏楽部にとっては最大の目標であった県吹奏楽コンクールで金賞を獲得ことや県マーチングフェスティバルへの出場も叶わず、目標が一方向的に閉ざされた状況でした。そういう中、県立劇場での演奏の場を提供できるとの連絡も入ったのですが、その条件は無観客でとのこと。・・・吹奏楽部は自分たちの活動のゴールをどこに設定するのか話し合い、出した答えが今回の定期演奏会でした。それは、どこで演奏するのかではなく、誰に聴かせたいのか、聴いて欲しいのか。そのことを何よりも優先したいからとのこと。これまで自分たちが頑張ってきたのは家族の理解と支えがあつてこそであり、だからこそ家族のために演奏したいとのことでした。そういう生徒の思いを受けて、顧問の山口は何度もアイデアを練り直し、今回の会場を家族毎の座席として準備し、その間隔を広くとることで、ご高齢のおじいちゃんおばあちゃん方にも安心して聴いていただけるようにとの工夫を凝らしてくれました。会場の隅々まで吹奏楽部らしい優しさに満ち溢れていました。

この日の演奏は、「輝ける夏の日へ」からのスタートでした。この曲は昨年度県吹奏楽コンクールでの演奏曲。卒業生との思い出が詰まった曲で、現三年生・二年生にとっては原点とも言える曲だそうです。その原点から始まったこの日の演奏曲にはそれぞれに意味があり、まさに誰のために演奏するのかということが伝わってくる構成でした。会の終盤には下級生から三年生に贈る曲が演奏されましたが、入部以来、教えてもらってきたその成果を精一杯披露したいという思いが伝わってきました。そして、それを受けての三年生から下級生に贈る演奏曲は「栄光の架橋」。三年生と部活動顧問からの幾重もの思いが込められたこの演奏は格別に心に染みましました。とても素敵な時間でした。

現吹奏楽部の最後のステージは「南中文化の日」。同級生と本校職員、そして家族に向けた演奏です。



【聴かせたい方々に心を込めて】



【新部長へ交替】



【三年生から思いを込めて】



【顧問の二人
山口・山田】

